

県大の未来への展望



広島県公立大学法人
県立広島大学 学長
県立広島大学同窓会 名誉会長

森 永 力

学長に就任して早や一年半が経過しました。この間、何をやってきたかと振り返ってもコロナ対策しか思い出せません。それほどこの二、三年はコロナの話題しかありません。戦後、奇跡的再生を果たした日本は、高度経済成長期を経て、バブル経済とバブル崩壊を経験し、今やグローバル化やボーダーレス化と呼ばれていた矢先、コロナにより、世界状況は一変してしまいました。未だ終息には至っていません。このような状況の中、日本の国力は下がり続けています。一九九三年に一人当たりのGDPが世界二位だったものが、二〇二〇年には二十三位にまで後退しています。また、日本企業の国際競争力（IMD）が一九九二年には世界一位だったものが二〇二〇年には三十四

位になっています。このような状況の中、日本を変えるのは地方の活力ではないかと思っています。一人一人の住人が自分の住んでいる地域に対して、自信や誇りを持てるような社会をつくる。地域の魅力やブランドを掘り起こす。そして地方のグローバル化を図る。そのためには、「地域に根ざした、県民から信頼される大学」を基本理念とする県立広島大学の役割は大きいと思っています。県勢活性化のための産学官連携をますます進めなければなりませんし、地域課題解決に対しても貢献しなければなりません。

ところで、九月二十二日から二十六日まで久しぶりに海外出張してきました。来年庄原の学生の研修先としてのベトナム・タイグエン大学への視察と

打ち合わせです。成田空港から出発しましたが、空港内のお店はほとんど閉まっており、外国人もほとんど見かけませんでした。三年前に利用した時と激変していました。これが日本の現実かと。一方、入国したハノイ・ノイバイ空港は外国人を含め人々であふれかえり、マスクをつけている人もほとんどいませんでした。もちろん、入国審査でも特別な規制はありませんでした。日本だけが取り残された感じでした。驚いたことはこれだけではありません。空港からの高速道路ではETC等の料金システムは見当たらず、バーコードが印刷された小さな紙切れがフロントガラスに貼られているだけでした。料金所風のところを通過するたびに、自分のスマホに料金が表示されています。政府が、日本のETC読み取り機やカードを導入しようとしたら、国民の反対にあったそうです。ここでも、日本の信頼が薄れている現実を知らされました。私が利用したレストランでは、すべて注文はタブレットからでした。隣にいたお年寄りが自由自在に使いこなしているのも、印象的でした。帰国・入国時の成田空港でも気になることがありました。入国者はいつものように日本人と外国人が分かれて審査

を受けますが、まず厚生省のQRコードをスマホで読み取り、必要事項を入力していかねばなりません。日本人の入力スピードは明らかに遅く、特に高齢者は係員に質問を繰り返して、長蛇の列ができてしまいました。外国人はてきぱきと処理し、長蛇の列ができることはありませんでした。いかに日本人がITを使いこなしていないかがよくわかりました。政府は今の高校生から「情報I」という科目を必修科目とし、国民のITレベル向上を図ろうと動き出しました。遅きに失した感がありますが、国民共通のツールとして普及させなければなりません。本学でも情報教育の充実を図っていかなくてはなりません。

同窓会の皆様のご理解とご支援を今後ともよろしくお願いいたします。



ウススキヌガサタケ（宮島にて採集）